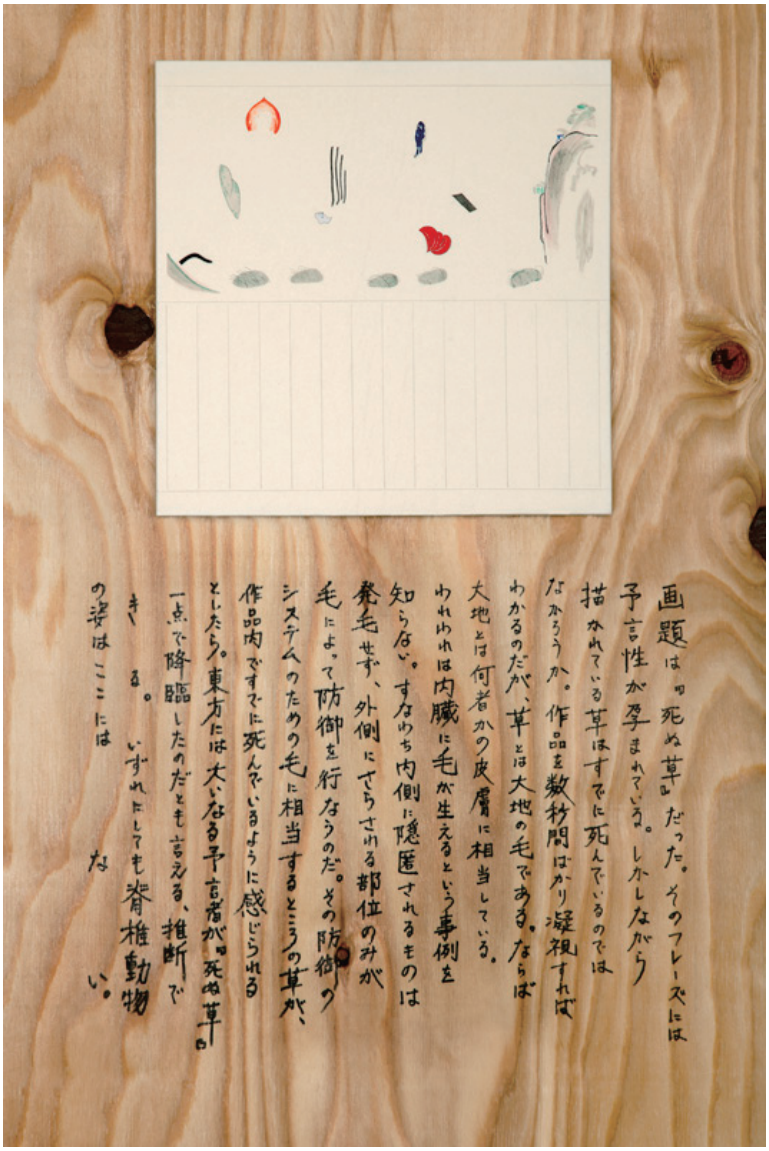
絵東方恐怖譚

近藤恵介｜古川日出男



2011 年 3 月 19 日（土）-4 月 9 日（土）

Gallery Countach

撮影：川村麻純

東方の恐怖はBT誌と清澄で掘られる。 ― 古川日出男

絵東方恐怖譚
近藤恵介｜古川日出男　展

2011年3月19日（土）-4月9日（土）
13:00-19:00　日月祝休　入場無料

オープニング・レセプション：2011年3月19日（土）　18-20時

［関連イベント］
19日（土）のオープニング・レセプションにて、近藤恵介と古川日出男による公開制作が行われます。
また、制作された作品は会期中展覧会場にて展示されます。
普段は公開されない作品の生まれる瞬間を目撃いただける貴重な機会となります。ご多忙中とは存じますが、
是非ご参加ください。

会場：gallery countach 清澄
〒135-0023 東京都江東区平野2-16-8 動物医療サポートセンター4F
tel：03-6915-3888
web：http://gallery-countach.com

企画：ギャラリー・カウンタック
協力：美術手帖、川村麻純、かくたみほ

展覧会概要

この度、ギャラリー・カウンタック清澄では、画家・近藤恵介（1981-）と、小説家・古川日出男（1966-）による2人展を開催いたします。
近藤恵介は、2007年東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。日本画材を用い身の周りにある様々なものを描きながら、精緻で緊迫感のある画面をつくり出します。空白の多い一見してシンプルな画面ではありますが、時間をかけ絵の具を支持体に定着させる「身振り」を繰り返した画面には、独特な広がりが生まれます。
古川日出男は、『13』で小説家としてデビュー。都市とそこに孕まれる知られざる歴史を小説の力で露見させ、我々の認識している現実世界の景色を更新させてゆきます。独特なリズムで構成された文章は読むものを圧倒し、一度触れると頭から離れ得ない強度で迫ります。早いペースで作品を発表し続け、常に小説の可能性を押し広げるその速度は、古川の小説の持つ疾走感とも通じるようです。他ジャンルとのコラボレーションも多く、活動の幅は文学界のみに留まりません。
また、2人は音楽家やコーヒーインストラクターと共に”the coffee group”としてCD『ワンコインからワンドリップ』を昨年7月にHEADZよりリリースしました。それ以来、2度目のコラボレーションとなります。

本展は、『美術手帖』4月号（3/17発売）掲載の「図説東方恐怖譚」（小説・古川日出男／絵・近藤恵介）とリンクした形態の展覧会です。誌上で展開されたコラボレーションを延長させ、展覧会という形式で誌面とは異なった表現を試みます。
誌面では、古川の小説と近藤の絵画が複雑に絡み合い、文字を読む、絵を観る、ページをめくる、といった本を読む行為の中でしか表現出来ない小説と絵画の関係を模索しました。
本展では、誌上で発表された「図説東方恐怖譚」から「絵東方恐怖譚」へとタイトルを変え、ページをめくる体験から展示空間に足を運び空間で作品と対峙する、という体験に位相を変えます。

制作はいくらかのプロセスを経て行われました。最初に古川の100文字×8篇のテキストが執筆され、それを起点として絵とテキストを往復させ作品を積み上げていく作業を繰り返し、それぞれの普段の制作におけるテーマとは遊離した異形の作品へと徐々に形を変化させていきました。
近藤は制作の過程で絵と文章の関係を模索するうちに、天平時代に制作された絵巻物《絵因果経》を参照するに至ります。《過去現在因果経》という教典を絵解きした《絵因果経》は、我が国で制作された最古の絵巻物です。物語が下半分に書かれ、それに対応した絵が上半分に描かれるというイレギュラーなフォーマットを持つ《絵因果経》は、1000年以上も前につくられたものの持つ「古さ」と、絵と文章の関係の端緒となったものとしての「奇異さ」を併せ持ち、今観ても多くの想像を喚起します。この《絵因果経》のフォーマットを下敷きに制作された近藤の絵画は、古川の物語を載せる為の器としても機能し、現代に書かれた物語を様々な位相で読むことのできる状態へと変化させ、小説が普遍性を獲得する一助となっています。

本展では、『美術手帖』誌上で発表された近藤による絵画8点に、誌上では隠匿された本展の起点となった古川の100文字×8篇のテキストを古川自身の手で書き加えられたものが展示されます。それに加え、近藤自身初の試みでもある絵巻物も制作されます。また、昨年の7月に開催された”the coffee group”のCD『ワンコインからワンドリップ』のリリースイベントの際に、衆人環視のなか行われたパフォーマンスで制作された小説と絵「バ・カ・ン・トの7月11日の静かな道程」を写真家・かくたみほ氏協力のもと初公開いたします。

誌面と展覧会場が交錯しつつも、両者が独立した強度をもつ作品群を内包し、かつ関係性の間にのみ生まれる質感を感じていただけるかと思います。
絵と文章の関係を問い直し更新させていく、仕掛けと企みに満ちた試みをご高覧いただければ幸いです。

近藤恵介（こんどう・けいすけ）...

1981年福岡県生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科日本画専攻卒業。以降、展覧会を中心に国内外で活動。現在、東京在住。また、アートワーク担当として参加しているthe coffee group（小島ケイタニーラブ、近藤恵介、鈴木雄介、蓮沼執太、古川日出男）のCD『ワンコインからワンドリップ』がHEADZより発売中。詳細はHP（http://coffeehlt.blogspot.com/）にて。

作家webサイト：http://www.kondokeisuke.com

展覧会

主な個展
2010 「 絵画の身振り」Satellite、岡山
2009 「 このへんからそのへん、そしてあそこらへん」Gallery Countach、東京
2008 「 いい地図」Gallery Countach、東京
「 project N 34 近藤恵介」東京オペラシティ アートギャラリー コリドール、東京
2006 「 毎朝歩く道について寝る前に考える」トーキョーワンダーサイト本郷、東京
2005 「 近藤恵介展」RICE+, 東京

主なグループ展
2010 「 あっけない絵画、明快な彫刻　近藤恵介・冨井大裕」Gallery Countach、東京
「 Countach Caravan」ギャラリー点、金沢
2009 「 ビューイングルーム」Gallery Countach、東京
「 Re:Membering -Next of Japan-」Gallery LOOP、ソウル、韓国
「 My story - ひとりあそび」MA2 Gallery、東京
2008 「 モンブラン ヤング アーティスト パトロネージ イン ジャパン」モンブラン銀座本店、東京
2007 「 東京画 - ささやかなワタシのニチジョウのフーケイ」トーキョーワンダーサイト渋谷、東京
2006 「 東京 - サンフランシスコアートフェスティバル'06」国営昭和記念公園みどりの文化ゾーン、東京 / the LAB、サンフランシスコ
2005 「 トーキョーワンダーウォール公募2005」東京都現代美術館

受賞
2005 「the Ambassadors'Art Prize 2005」,Decourtenayギャラリー（ベルギー）／Decourtenay Prize受賞
「トーキョーワンダーウォール賞」トーキョーワンダーウォール公募2005

アートワーク
蓮沼執太｜Shuta Hasunuma /『 POP OOGA』, HEADZ, 2008年（CDアートワーク）
anonymass /『 anonymoss』, ミディ, 2008年（CDアートワーク）
蓮沼執太｜Shuta Hasunuma /『 OK Bamboo』, Western Vinyl, 2007年（CDアートワーク）

私とその状況（あっけない絵画、明快な彫刻） 2010
岩絵の具、水干、膠、墨、鳥の子紙
53×53cm
(c)KONDO Keisuke

本に絵 2009
岩絵の具、水干、膠、墨、本
25.8×41.2cm
(c)KONDO Keisuke

古川日出男（ふるかわ・ひでお）...

1966 年福島県生まれ。小説家。

これまでの著作は『13』『沈黙』『アビシニアン』『アラビアの夜の種族』（第 55 回日本推理作家協会賞・第 23 回日本ＳＦ大賞）『中国行きのスロウ・ボートＲＭＸ』（文庫版は『二〇〇二年のスロウ・ボート』）『サウンドトラック』『ボディ・アンド・ソウル』『gift』『ベルカ、吠えないのか？』『LOVE』（第 19 回三島由紀夫賞）『ロックンロール七部作』『ルート３５０』『僕たちは歩かない』『サマーバケーションＥＰ』『ハル、ハル、ハル』『ゴッドスター』『聖家族』『MUSIC』『４４４４』『ノン＋フィクション』『ＴＹＯゴシック』。また対談集に『フルカワヒデオスピークス！』がある。

執筆のかたわら、文学の音声化にも積極的に取り組み、2007 年には雑誌「新潮」に朗読ＣＤ『詩聖／詩声　日本近現代名詩選』を特別付録として発表。これは日本の商業文芸誌では初となる“ＣＤ付き”の試みだった。2010 年には雑誌「早稲田文学」に 200 分に及ぶ朗読ＤＶＤ『聖家族 voice edition』も発表している。

小説と朗読担当として the coffee group に参加し、2010 年にＣＤ『ワンコインからワンドリップ』をリリース。複数のライブ・イベントも敢行し、画家の近藤恵介と初めての共同制作を果たした。その他の異ジャンルとのコラボレーションに、ロック・ミュージシャンの向井秀徳（ZAZEN BOYS）との全国４都市ツアー（2007 年ー2008 年）、コンテンポラリー・ダンサーの黒田育世（BATIK）との共同制作の舞台『ブ、ブルー』の上演（2009 年２月、川崎市アートセンター）等がある。音楽家の植野隆司とイトケン、戸塚泰雄の３名と共演したフルカワヒデオプラス名義の朗読ＣＤ『MUSIC: 無謀の季節』も 2009 年に HEADZ から発売されている。

撮影：川村麻純

■掲載用写真の貸出など、本展に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

gallery countach（ギャラリーカウンタック）　担当：八木沢俊樹（やぎさわ・としき）
〒161-0031 東京都新宿区西落合 4-3-1 フジビル 3F
tel:03-6915-3888　fax:03-6915-3883
e-mail:ty@gallery-countach.com　website:http://gallery-countach.com